

## 平成 28 年度 地域自立支援協議会交流会実施報告

## 交流会の概要

- 【開催日時】  
平成28年9月16日（金曜日）13時30分～16時45分
- 【開催場所】  
東京都社会福祉保健医療研修センター
- 【開催目的】  
（1）地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、協議会の活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。  
（2）都の協議会として、地域協議会の活動状況について把握を図る。
- 【参加者】  
地域自立支援協議会委員、区市町村障害福祉主管課職員、事務局等
- 【プログラム】  
○開会の挨拶 東京都心身障害者福祉センター所長  
○話題提供 「行政と協働した人材育成」  
講師：特定非営利活動法人 若駒ライフサポート  
理事長 大須賀 裕子 氏  
「文京区における人材育成について」  
講師：文京区障害者基幹相談支援センター  
相談支援専門員 鈴木 聖人 氏
- グループ討議  
テーマ1 「少数職場におけるOJT（職場内）」  
テーマ2 「参加しやすく効果的なOFF-JT（集合研修）」  
テーマ3 「相談支援専門員同士のネットワーク」  
テーマ4 「多職種連携（個別支援会議）」  
テーマ5 「他分野との連携（医療、高齢、貧困等）」  
\* 6～8名で8グループを構成。各テーマに都協議会委員を配置。
- 全体会  
\* 各テーマ担当の都協議会委員からの報告  
\* 都自立支援協議会 沖倉智美会長によるまとめ

## 参加者の概要

## 参加者数

51名 (13区13市1村) (所属内訳) ※複数回答	
協議会委員	19名
専門部会委員	18名
市町村所管課	10名
協議会事務局	9名
その他	5名

## アンケートより

- ・テーマごとにグループ分けしたため、それぞれのグループで深く掘り下げることができてよかった。
- ・少人数で話しやすい雰囲気だったので、初対面でも活発に意見交換できた。
- ・いろいろな地域の方に会い、話をするのは刺激になった。
- ・討議の内容が多岐に渡り、時間が足らなかった。

## 話題提供

- テーマ「行政と協働した人材育成」 一八王子市計画相談支援初心者研修の紹介—  
特定非営利活動法人 若駒ライフサポート 理事長 大須賀 裕子 氏
- 初心者研修を実施するきっかけ  
初任者研修終了後の実務研修の必要性を感じた。
- 初心者研修を行うにあたり検討したこと
- ・事業所に呼びかけ協力者を募り、市と協働して実施する。
  - ・江戸川区の研修を参考に、自分たちで出来る内容を行う。
  - ・初任者研修を修了した人に対しての実務研修であること。
- 準備から実施まで
- ・市担当者日時・会場・呼びかけ文・周知方法などを話し合う。
  - ・相談支援事業所の協力してくれる相談員と研修内容の話し合い。
  - ・第1回八王子市主催計画相談支援者初心者研修実施  
内容：市担当者から所管課組織、担当業務、利用計画案提出手続き等説明、相談支援事業所より計画作成、支援法のポイントの説明、障害別グループ演習を担当する。
- 相談支援専門員の人材育成について
- ・相談支援専門員の孤立を防ぎ、情報交換や話し合える場を作る。
  - ・行政にも相談支援専門員の育成を担ってもらう。一緒に障害者の方の支援をする。
  - ・相談支援事業所連絡会は、市とより良い関係を築ける会にしていく。

## グループ討議概要（主な意見）

- テーマ1「少数職場におけるOJT（職場内）」
- ・新人は相談員と同行して相談員の活動をともに振り返ることも貴重、情報の共有するだけでなく、考え方、相談支援の振り返りを含めて、そのような時間の共有化が大事。
  - ・分からないということについて、何がわからないのかを分かるように課題を整理して、話しやすい職場の雰囲気的大事。
- テーマ2「参加しやすく効果的なOFF-JT（集合研修）」
- ・基礎的な研修の実施、ステップアップした研修の実施。
  - ・質の向上を意識していくこと、意図的にそのことを促すことも大事。
- テーマ3「相談支援専門員同士のネットワーク」
- ・官民共同でお互いにサポートしながら発展させていくことが必要。
  - ・ネットワークのキーパーソンとして、行政主導に慣れることなく、中立の立場の方、学識経験者にかかわってもらうことも大切。
  - ・役割分担をローテーションさせ、常に刺激を与えていく。
  - ・問題の解決策、ポイントなどの成果が見えるネットワークにしておく。
  - ・初心者向けネットワークの対応等、聞きやすい環境の設定。
- テーマ4「他職種連携（個別支援会議）」
- ・医療、教育との連携は行政が主導すると動きやすいことがある。
  - ・専門家がそれぞれの立ち位置で意見を言い合い話が進まない、本人が置き去りになるとき、本人や家族の意見を尊重することも必要。

- テーマ5「他分野との連携（医療、高齢、貧困等）」
- ・キーマンだけでなく、共通するツールがあるとよい。
  - ・本人の問題だけでなく、家族全体という大きな枠で見なければならぬときに他分野連携が出てくる。
  - ・違う立場の方々が集まり、議論を始める前に時間がかかるが、手間をかけ、互いに理解するところから他分野連携になる。

- テーマ「文京区における人材育成について」  
文京区障害者基幹相談支援センター 相談支援専門員 鈴木 聖人 氏
- 区地域自立支援協議会について  
相談支援専門部会と定例会議が人材育成も担う会議体(定例会議は実務者中心に依頼構成)。定例会議では必要な情報共有やスキルアップを図る、地域の相談支援ネットワークの強化、研修、地域の足りない資源を吸い上げて課題を相談支援専門部会へ提言していく。
- 求められる人材育成や役割について  
「地域移行、地域定着の促進」、「地域の相談支援体制の強化」を2本柱として、基幹相談支援センターでやれる範囲で人材育成を行っている。
- 区内における人材育成の課題について
- ・参加者が固定し、同じ顔ぶれになってしまう。
  - ・研修で学んだこと、区の単位で研修を行ったことに対して、日常の業務にどの程度、反映できているのか。現場でのOJTの成熟度、柔軟性に関連してくるのではと考える。
  - ・職種、経験年数、障害種別によってテーマの設定が難しい。開催回数の限界、マンパワー不足。
- 基幹として大切なこと  
人材も一つの地域資源だという視点。基幹相談支援センターでは区の特徴を生かした研修を企画し、活動している。区の福祉の連携、情報を共有して活動していけばより良いものができるのではないかと考えている。

## 全体会

- 【グループ討議報告】  
○テーマごと、担当の協議会委員から討議の概要を報告  
【全体会まとめ】  
沖倉東京都自立支援協議会会長によるまとめ  
今年3月から5か月間で議論した、厚労省「相談支援の質の向上に向けた検討会」に出席。詳細は厚労省のホームページに議事録を見ていただきたい。検討会の目的は、平成30年度、相談支援専門員、サービス管理責任者等の養成研修カリキュラムの改正があるが、検討会の議論を、それに活かしたいということ。もう一つは、相談支援体制をどうするのかを議論した。結論は、各自自治体でどう取り組んでもらうのかということは一概に言えない、として終わっている。  
今回の交流会グループ討議について、テーマは5つだが、大きく分けて、2つになる。  
○専門員個人、専門員を中心とした個々の人材のトレーニングをどうするのか。  
○関係者間でどう連携をするのか。  
(討議のまとめ)  
ネットワークについて  
□ ネットワークは集まるだけがネットワークではなく、成果が見え、何か共有できるものがあること。  
□ ネットワークを豊かにして多層性を持つこと。  
□ ネットワークができない、難しいといった時には、当事者を中心に連携すること。  
個別支援計画について、対象者の支援を皆で考えること。本来、関係者の利害が一致しなければならないが、なかなかそうならない。率直に意見交換ができて、当事者のために協力して働くという関係を作る。  
相談支援について、相談支援は地域を基盤として行う。地域での生活をどう支援するのか。相談支援専門員はサービス等利用計画を作るだけではなく、地域をつくっていくこと。  
ネットワークの中で当事者の児童期から高齢期を含め、視野を広くして支援していき、連携の方法を考えていく。  
私たちが相談支援をするとき、地域でどのような相談支援体制を目指すかということをもう一度考えなければならない。

